

令和7年度 学校評価表（最終評価）

能登町立柳田小学校

通し番号	評価項目	今年度の重点項目	担当者	評価規準・評価の観点	具体的な取組	実現状況の達成度判断基準	評価材料	自己評価		取組の成果と次年度に向けた改善策	学校評価	
								中間	最終		中間	最終
1	①学校研究の推進		研究主任	・学力向上プランによる学校研究が充実している。	・授業研究の充実 ・授業相互参観 ・外部講師を招聘した研修会 ・校外研修への積極的な参加	児童アンケート②「話し合いを通して考えを深めようとしている」④「端末を話し合い活動に使っている」『肯定的な評価』の割合 学期末診断テストの達成率 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート②84.4 ④92.2 診断テスト達成率86%	B	A	・学校研究の取組を共通理解し、共通実践することができた。さらに徹底し、確かな学力に繋げたい。 ・授業の相互参観を充実させ、授業改善に努めた。取り組み方を改善しながら、全職員が互いに授業を見合えるようにした。 ・指導主事要請訪問など、外部講師を招いた授業力向上のための研修を行った。		
2	1 学力の向上 ②基本的な学力の定着		教務主任 GIGA推進教師	・基礎基本が定着している。 ・一人一台端末を活用した効果的な家庭学習を行っている。	・ドリルタイム、補充学習の充実 ・漢字検定、算数検定 ・家庭学習の充実 ・GIGA校内研修の充実	算数科 学期まとめテスト達成率 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	2学期まとめテスト（知識・理解）84.3% 2学期まとめテスト（思考・判断・表現）79.1%	B	B	・ドリルタイム、補充学習共に改善を図りながら取り組んだ。 ・検定については、目標をもって取り組む児童が増えたが、成果につながるよう取り組み方や内容について検討していく。 ・自主学習ノートコンテストを実施し、他の学年の良いノートを見る機会を作った。また、良い自学ノートを掲示し、いつでも見ることができるようにした。	B	A
3	③教師の授業力向上		研究主任	・的確なまとりによる『いい授業』が行われている。 ・深い学びの実現にむけた『委ね』のある授業をしている。	・授業導入の工夫 ・発問や板書の工夫 ・表現の場の工夫 ・見取りと評価の工夫	保護者アンケート②「授業がわかる」と言っている 職員アンケート③「45分での授業完結率」④「ねらい達成率」 A：80%以上 B：70%以上80%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	保護者アンケート②82.2 職員アンケート③92.3（Aのみ） ④100（Aのみ）	C	A	・研究授業や相互参観で、授業改善を図った。 ・どの教科でも授業でめざす「ゴール」を児童と共通理解し、児童同士が交流する場を設定した。一人一人が表現できる場を保障することを意識した授業が増えてきたが、それを、目指す「ゴール」へとつなげるには、更なる改善が必要である。		
4	2 豊かな心の育成 ①あたたかな眼差しのある学校		生徒指導主事	・子どもを認める時と場を意識した一人一人の居場所がつけられている。 ・縦割り班活動の充実が図られている。 ・いじめ、不登校の未然防止と支援に努めている。	・縦割り班活動の充実 ・情報共有に基づいた児童対応 ・児童や保護者への丁寧な対応 ・個々の良さを引き出す指導	児童アンケート①「学校は楽しい」⑦「失敗を恐れずチャレンジした」⑧「自分にはいいところがある」の肯定的割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート①89.6 ⑦88.3 ⑧83.1	A	B	・縦割り班活動の回数を増やした。次年度はさらに回数を増やし、縦のつながりを意識していく。 ・児童への対応について、校務支援システムを使った情報共有を呼びかけたが、活用しきれていない。支援する内容についても、もっと具体的に示し、共有していく。 ・柳田の木の木を充実させ、お互いの頑張りを認め合う雰囲気や日常化する。（常に職員室に紙をおいておく、教室にコーナーをつくるなど）		
5	②規律ある集団づくり		生徒指導主事	・準備の時を意識させている。 ・目標設定とふり返りを明確にした学級づくりが図られている。	・柳田小授業ルールの徹底 ・生活目標とふりかえり	児童アンケート③「柳田小5つのルールを守っている」⑥「目標や仕事を最後まで頑張った」⑦「挨拶を自分から進んでした」『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート③83.1 ⑥94.8 ⑦88.3	A	B	・学習、生活目標に振り返りの欄をつくり、毎週意識させることができた。 ・柳田小5つのルールが浸透していない。児童、職員に意識させるためにキーワードにして短くするなどの改善を図りたい。	A	A
6	③心を育む教育実践		道徳推進教師 キャリア教育担当	・道徳教育、人権教育、キャリア教育が充実している。	・道徳教育の充実 ・特別活動の充実	児童アンケート⑨「相手の気持ちを考えて行動している」の『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート⑨87.0	A	A	・道徳の教科書改訂に伴う授業用の掲示教材や指導計画の変更を行った。 ・行事等の目標設定や振り返りがキャリアパスポートとつながるように校内で統一できなかった。今後は生徒指導部から積極的に提案する。		
7	3 体力・生活習慣の向上 ①体力向上と運動に親しむ取組		体育担当	・『スポチャレいしかわ』や『いしかわつ子駅伝』への挑戦を行っている。 ・体育的行事に積極的に参加している。	・「スポチャレいしかわ」への取組 ・体育的行事の充実 ・各種大会への積極的な参加推進	児童アンケート⑩「進んで運動している」『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート⑩85.7	B	A	・体育的行事に向けた目標カードをもとに個人練習やペア練習を行うことで、児童の運動への意欲が向上した。 ・行事と関連させてスポチャレいしかわの取組を行うことにより、意欲的に挑戦していた。 ・ワークスペースでのトレーニングコーナーの効果的な活用について見直しを図る。		
8	②心身の健康の増進		保健主事	・食生活の充実が図られ、基本的な生活習慣が確立している。 ・SCと連携した心身の健康の増進が図られている。	・年間を通じた健康教育と食育 ・学校保健委員会 ・メディアコントロール週間 ・非行被害防止講座	児童アンケート⑬「好き嫌いをせずに食べるようにしている」⑭「ていねいに歯をみがいている」⑮「ハンカチティッシュ持参」⑯「3点固定を意識している」の『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート⑬88.3 ⑭92.2 ⑮89.6 ⑯67.5	B	A	・全校で毎日の給食指導、歯磨き指導、定期的な衛生検査を継続して行い、児童の基本的な生活習慣の意識が高めることができた。 ・メディアコントロールの取り組みを家庭と連携して継続する。メディアに関する授業を行い、児童の意識を高めていきたい。 ・検診後の治療が進まない児童の保護者と養護教諭が面談することで、受診率が向上した。	B	A
9	①安全教育、防災教育の推進		保健主事	・危険予測、危険回避の資質・能力を育成している。 ・定期的な各種訓練と校舎内外の安全点検および整備が行われている。	・マニュアル作成と見直し ・安全点検 ・清掃活動 ・避難訓練の充実 ・事故対応研修	保護者アンケート⑬「健康・安全指導を行っている」⑭「環境整備に努めている」『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	保護者アンケート⑬95.9 ⑭98.6	A	A	・計画通りに避難訓練（水害・休み時間の地震避難）、安全点検を実施できた。訓練実施後、より良いものになるように対応マニュアルを見直している。 ・職員の嘔吐物処理研修を実施し、感染を防ぐために、児童への対応や処理の方法などをチームで動くことを確認した。		
10	4 安心安全で地域に開かれた学校 ②保護者や地域と連携した教育実践		教頭	・保護者・地域・学校が力を合わせて教育活動に取り組んでいる。	・除草作業 ・資源回収 ・PTA役員会等	保護者アンケート⑮「保護者対応」⑯「保護者と協力してPTA活動」の『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	保護者アンケート⑮95.9 ⑯97.3	A	A	・会員数減少に伴う役割や活動内容の見直しを適宜行い、参加しやすいPTAとなるように努めている。 ・役員が中心となり、児童が企画した「能登ももっとして集会」を後押しするための企画「PTAおはぎづくり、もちつき」を企画、実施した。		
11	③地域の教育力を生かした教育課程の編成と実践		教務主任	・能登町のよさを知るふるさと教育が行われている。	・地域の方を講師に招いた授業 ・地域教材の開発と活用 ・体験活動の充実	児童アンケート⑰「地域の学習は楽しい」 保護者アンケート⑰「地域の良さを伝える教育活動」『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート⑰85.7 保護者アンケート⑰100	A	A	・地域人材を生かした授業を全ての学年で実践できた。次年度は、柳田の産業に焦点をあてた教材開発を行う。 ・「能登ももっとして集会」が、学習成果を発信するよい機会となった。 ・教育課程を見直し、系統的に学習を進められるようにしていく。	A	A
12	④保護者や地域に開かれた学校づくり		教頭	・HP、各種おたより、学校公開等を通して、日々の教育活動を保護者や地域に伝えている。	・地域・保護者を対象とした公開授業 ・各種お便りの定期的な発行とHPの更新による情報発信	保護者アンケート⑱「学校は教育活動の様子を積極的に伝えている」⑲「開かれた学校づくりに努めている」の『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	保護者アンケート⑱100 ⑲100	A	A	・学校だより、学級だより、各種お知らせ文書等を配信する形に移行中である。カラーで見ることができ、保護者に確実にお便りが届くため、好評である。 ・読書ボランティア、クラブ活動の地域講師、ふるさと学習のゲストティーチャーをはじめ、地域の方々と共に行う教育活動を更に推進していく。		
13	5 働き方改革と組織力の向上 ①全校で足並みを揃えて指導する体制づくり		教頭 教務主任	・主任を中心に、評価に基づいた課題改善策が示され、組織的に取組が行われている。	・客観的な評価を生かした学校運営 ・主任会議の充実 ・課題改善の推進	職員アンケート⑳「組織的に取組む」の『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	職員アンケート⑳91.7	A	A	・前回の反省点を生かした行事等の立案を行い、主任を中心としたチームで精査する体制が整ってきた。 ・次年度の行事計画や教科指導計画等の見直しを3月までに終わらせ、新年度を円滑に始められるようにする。		
14	②自ら成長しようとする職員の育成		教頭 教務主任	・若手早期育成プログラムと日常的なOJTが充実している。 ・校内外の研修を通して学び合っている。	・学校の課題に即した研修の設定 ・職員同士で学び合う風土の醸成	職員アンケート㉑「肯定的な評価」の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	職員アンケート㉑100	A	A	・若手育成研修では、若手職員同士が意見を出し合う発信型に切り替えた。 ・再任用等のベテラン教員に若手のメンターとして学習指導や生徒指導などを日常的に助言するよう依頼した。 ・外部講師を招聘し、目標達成型の学級経営や学校組織実現に向けた職員研修会を実施した。	A	A
15	③児童に向き合う時間を豊かにする時間を生み出すための業務改善		教頭 教務主任	・働き方改革を意識して、実施している。	・定時退校日や定時退校時間の設定 ・校務分掌の複数体制化 ・計画的な行事運営	職員アンケート㉒「肯定的な評価」の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	職員アンケート㉒92.9	A	A	・3学期より最終退校時刻を18時に変更した。 ・行事の精選、会議の縮減、授業時数の適正化を図り、勤務で時間の中で職員が授業準備を行う時間を確保する。 ・1学期の時間外勤務時間の平均は26時間、2学期は21時間であった。		

【学校関係者評価委員からのご意見】

1. 学力の向上・・・読む力と書く力の定着をはかる必要がある。
2. 豊かな心の育成・・・教職員間で情報を共有し、児童の「小さな成功体験」を積み重ねられるように指導する。
3. 体力・生活習慣の向上・・・歯科受診率が上がったことは、成果である。
4. 安心安全で地域に開かれた学校・・・自分の命を自分で守ることができるよう、避難訓練を継続する。ふるさと教育を引き続き実施してほしい。
5. 働き方改革と組織力の向上・・・職員が問題意識をもって働き方改革に取り組んでいる。